

タウンミーティング 会議録

日 時：平成22年11月19日（金） 19:00～20:31

場 所：黒部市民会館（三日市）

テーマ：1. 小中学校の再編について

2. 自然エネルギーの利活用について

3. 水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について

参加者：103名

【事務局】

ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、只今から平成22年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。

今年も昨年同様に市内4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は初日であります。

今回のテーマにつきましては、一つ目が「小中学校の再編について」、二つ目が「自然エネルギーの利活用について」、三つ目が「水博物館（地域観光ギャラリー）の整備について」、以上3つのテーマであります。

最初に市長からこのテーマについて、約20分ご説明申し上げます。その次に、会場の皆様方からテーマについて順次ご意見、ご提言をお受けいたします。

なお、終了時間は8時30分ごろを目途として進めていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

また、先ほど受付でアンケート用紙をお配りいたしました。この場でご発言できなかった皆様からも自由にご意見をいただきたいと思いますので、日頃から感じておられることをご記入いただきまして、お帰りの際、受付で回収させていただきますので、よろしくをお願いいたします。お寄せいただいた意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただきます。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

皆さんこんばんは。皆様方にはお仕事のあと大変お疲れのところご参集を賜り、誠にありがとうございます。

また、今回のこのタウンミーティングの開催にあたりまして自治振興会並びに町内の役員の皆様方には大変ご理解、ご協力を賜りまして心から感謝を申し上げます。

これまで、市町村合併或いは庁舎建設等をテーマにタウンミーティングを開催させていただきましたが、今日は若干出足が少ないような気がしますが、黒部市にとりましてはこのテーマも大変重要なテーマでありますので是非忌憚のないご意見、ご提言をいただきたいと思っております。

さて、黒部市が合併しまして5年目を迎えております。また、黒部市の10年間のまちづくり計画であります総合振興計画がスタートいたしまして2年半がたったところであります。それまでは黒部市が計画いたしております重点事業につきましては、鋭意進めているところでありまして、ここまでは概ね順調に計画通り進んできたのではないかと考えているところであります。

一方、政権が変わったことによって事業仕訳等で何らかの影響が出ると思っておりますし、またここへきて急激な円高などによる経済の影響なども懸念されるところでありますが、そういう状況をしっかり見定めながらこの黒部市の重点課題を着実に進めていくことが大変大事ではないかと思っております。また、最近ではなかなか行政だけでは市民の皆さんのニーズに答えるのが難しくなってきました。そこでこれからの新しいまちづくりを進めていく上で、大事なことは総合振興計画の基本理念にもあります「市民参画と協働によるまちづくり」というのが黒部市のまちづくりの基本理念でございます。この協働という言葉。協働によるまちづくり。これを今後さらに進めていきたいということで、この度、「協働のまちづくりガイドライン」の策定をさせていただきました。当然、市職員も勿論であります。市民の皆さんたちにも協働のまちづくりということについて更に、ご理解、ご協力を賜りたいと思っております。今後は協働によるまちづくりを皆さん方のご理解、周知にむけて鋭意進めていきたいと思っておりますので、今後とも皆さん方とともに連携できるようにしながら進めていくということに対しましてご協力を賜りたいと思っております。

それでは、早速本日のタウンミーティングのテーマのご説明を申し上げたいと思いません。

詳細については、「課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから本日のテーマに関して、会場の皆様からのご意見やご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見を述べていただきます。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でできるだけたくさんの方からご意見をいただきたいと考えておりまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内でお願いいたします。

それでは、ご発言のある方は挙手をお願いいたします。

【Aさん】

1番くじを引いてしゃべらせていただきます。

私は水力関係のところで40年ほど勤めておりましたので、自然エネルギーの利活用のところで自分の考え方を述べたいと思います。

ちょっとわからないんですけど、市長さんの言われることはごもっともでいいことだと思っておりますけど、小水力の発電所というのは、これは市がやるんですか。

【市長】

市がやります。

【Aさん】

私は、いろいろな関係からして、市がやるということは、おそらく経済的には甘いだろうという感じでおります。私ら会社では、小水力とかそういうことはいろいろ検討はいたしましたけど、これについてはおそらく収益は、結果としては上がらないだろうと。数をたくさん持っておればそれなりにメリットはあると思いますけど、1カ所ぐらいでは絶対にもうかりません。これはやめられたほうが、私は一番いいと思います。

というのは、ご存じだと思いますけど、石川県の県営発電所が維持していけないということで、ご存じのとおり、北陸電力さんのほうへ売却されたというか、そういうことで、市が直接やるということは私は非常に問題かなと。例えばほかの民間の業者さんが黒部市の農業用水とか、そういういろいろなものを利用してつくるといふことであれば、市がそれをバックアップするとか、民間企業の方にやっていただいて、市のほうがバックアップするのが私は一番いいんじゃないかなと思います。

ちょっとおくれましたけど、私は黒部川電力という会社のほうに勤めておりましたので、民間の方にやっていただいて、市がバックアップするほうが私は一番いいんじゃないかなと、今かように思っております。

それと、太陽光発電のことも話に出ておったようですけど、これも本によりますとまたCO₂が削減されるとか何かいろいろの話もありますけど、また、他方で、逆に今の電力会社がつくっております大きい発電所のほうがトータルCO₂が少ないと、そういう話もございます。いろいろな見方があるんだろうと思いますけど、確かに太陽光発電につきましては、普通、電気を起こしておるときはCO₂は出ません。だけど、太陽光発電をつくるための、生産するためのCO₂が結構大きいという話も聞きます。そこらあたりは雑誌によっていろいろ言い方をしておりますけど、そこらあたりも含めてやはり検討しなければならぬんじゃないかなと。私らが聞いておりますと、個人のいろいろな意見を聞いておりますと、本当はわからないと。今、銀行の預金利子があまりにも低いものですから、そういう計算からすると、プラスだけど、メリットはおそらく私はないんじゃないかなと、このように思っております。

そういうことで、くどいようですが、市が小水力をやるということは、私は反対です。以上です。

【市長】

ありがとうございます。

これだけ豊富な名水の里として、小水力発電にはかなり前から関心を持っておりまして、ぜひやりたいと思っていたんですが、これを実施する上でのやっぱり条件の1つは、私は採算がとれることが条件の1つだと思います。そこでいろいろ調査した結果、今行おうとしている宮野用水の愛本地点におきましては、導水管等は既存の今ある右岸から左岸へ渡している、あの導水管の水をそのまま利用するという事などからして、この発電所については十分採算がとれる試算をしております。これは専門家の皆さん方のいろんな意見を

確認した上で、この場所について行われる小水力は採算がとれるということで計画を進めているところです。市が行う予定であります、運営管理については市が直接行うことは難しいと思っておりますので、民間に委託をしたいと思っております。事業とすれば市が行うことで、今言われたような採算のとれないようなことについては、ぜひならないように注意して進めていきたいと思っております。

太陽光についてはいろんな考え方がありますが、今、小学校4校で設置しております、環境問題とか自然エネルギーのことについて、児童・生徒に関心を持ってもらおうということで今4カ所に設置をしておりますが、このことについても、あまり採算がとれないようなことであれば、それは慎重に考えなければならないのですが、これらのことにつきましてもかなり国の補助が出ますので、そういうものを利用しながら進めていきたいと思っております。

【Aさん】

水力はネドとか富山県だと北電産業さんの方で検討をやっておられるんじゃないですか。

【市長】

北電さん含めていろんなところで相談をさせていただいております。

【Aさん】

どうしてもやりたいというような意向が強いですから、あまり当てにならんようですよ。私たちがいろいろとタッチしてきておりましたけど、やっぱり相手も商売ですから、やりたいばかりの話なんですね。私らも五、六カ所いろいろ検討しましたが、最終的にはやっぱり採算が合わないということでやめましたけど、NEDOのほうは結構補助金を出しますというようなお話なんですけど、結果的にはなかなかやはり採算が合わないということが多かったということです。

それと、もう一つ市長に聞きたいのは、黒部市が太陽光ということで補助を出していますよね。この補助金というのは、これは私たちの税金から出しておるとのこと？ 結果としては、そこが私、ちょっと聞きたいんですけど。

【市長】

市の一般会計から出しておりますから、結果的には税金です。

【Aさん】

それだと、私、ちょっと問題があるんじゃないかなと思ったのは、というのは、企業からも来ているのかなと思ったんですけど。どうしても太陽光ということになれば、一般の太陽光になれば、極端な言い方をしますと、お金持ちの人しかできないということになりますので、市の補助金を使っていいのかなと思って、私、市役所のほうに電話してみようかなと思ったんですけど、あえて今質問させていただきましたけど、何か金持ちばかりがつけるような感じなので、いかがなものかなという気がします。というのは、それをつけたことによって、固定資産税とかが増えるんですか。例えば300万円でつけたら固定資産

の価値が上がって、そこから少しでも税金が取れるようなことになるんですか。

【市長】

いろんな方々からいろいろ質問なり意見をもらいたいので、簡潔に言いますと、この太陽光発電につきましては、国がキロワット当たり7万円補助します。県は1件当たり5万円、市はキロワット当たり3万5,000円で、上限が3キロで10万5,000円ということになっていますので、国も県も市も、この設置については支援している格好になっています。

【Aさん】

極端な話、私らの税金ということですね。何か金持ちばっかりに支援して私は賛成しかねるという感じがしています。ありがとうございました。

【事務局】

ほかにごいませんか。

地区名とお名前をおっしゃっていただいております。

【Bさん】

前沢のBといいます。

小・中学校の再編について、2点ほど申し上げます。

先ほど、25年ごろまでに、東布施と田家の話をされました。それで、その次は30年ごろまでに前沢と三日市の話が出ました。これは、状況によっては26年ごろに早まるという可能性はあるのでしょうか。あくまで30年が目標なんですかということも1点と、それから、実は私のところの小学校は明治6年にできたそうですので、130何年間の歴史があるんですが、私は個人的には、この状況を見ますと統合もやむを得ないと思っております。それで、今後の進め方についてちょっとお尋ねしたいと思います。単純になくするのも1つの方法だろうし、それから、先ほど言いましたように、長い歴史の中で合併することになれば当然名前が変わるだろうと思っておりますので、そういう地域の愛着といいますか、そういうものも含めたかたちで、じっくりと時間をかけてやられるのか、その2点お願いいたします。

【市長】

ありがとうございます。

まず、先ほどの映像で示されているものにつきましては、これはあくまでも学校教育基本計画の中での目標年度であります。ですから、今、Bさんが言われたように、前沢の小学校のお話をされているんだろうと思っておりますが、その地域でそういう話が早くまとまる、また、早く実施していただきたいと。当然いろんな条件なり話し合いがあると思っておりますが、そういうことであれば、それは前倒しして進めていくということは十分あり得ると思っております。

それから、統合した後の学校名などについても、住民の皆さん方が、やはり自分たちの学校だというふうな、そういう愛着心を持ってもらうためには、学校名等についても協議

をしながら進めていくことが大事ではないかなと思います。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。
そのほかにございませんか。

【Cさん】

三日市地区のCと申します。

ただいまの質問にありました小・中学校の編制についてということで、ご質問をさせていただきたいと思います。

それで、市長さんが言われました話の中で、本市の理想的な学校規模ということで、小学校、1学級当たり25人から30人程度、1学年当たり二、三学級と。あるいは、中学校についても1学級当たり30人から35人程度というふうにして、1学年当たり四、五学級というふうにありますけれども、先ほど、東布施小と田家小が平成25年ごろまでに統合という話なんですけれども、この25年ごろまでの統合の間に、理想的な学校規模というふうを考えて25人から30人程度、あるいは二、三学級というような形でなされようとしておられるのでしょうか。大変ありがたいことだなど、子供たちにとっても小規模校のよい点、メリットが生かされるんじゃないかなと思って、質問させていただきました。

【市長】

実は、児童数の推移の予測からしたら、東布施小学校が平成24年から複式学級になる予定であります。今のところは、平成24年には1学級といたしますか、複式学級が1つ出ます。それから、26年になったらもう一つ出ます。複式学級になる国の基準がございまして、2つの学年で国は15人以下になったら複式学級、県はそれよりも1人少ない、国は16、県は15人なんです、15人以下になったら複式学級にしないという事の基準があります。1年生の学級の場合は8人という基準があるわけですが、そういう基準からすれば、東布施小学校も平成24年には1つが複式学級になる。26年には2つがなるということが予想されますので、ほぼ確実にそうなると思いますので、そういうことも考えながら、平成25年ごろには統合ができればということで、地元の皆さんとかPTAの皆さん方もいろんな議論をさせていただきたいと思います。そういう基準を1つの参考にしながら、そういうふうな統合を進めていければと思っているところであります。

【事務局】

Cさん、よろしいでしょうか。
ほかにございませんか。

【市長】

何なりと、どんな細かいことでもよろしいですから、お答えできることとできないことが当然ありますが、遠慮なくご発言をお願いしたいと思います。

【事務局】

ほか、ございませんでしょうか。
地区名とお名前をよろしくお願いいたします。

【Aさん】

私ばかりで申しわけないですけど、水博物館のほうでちょっとお聞きしたいんですけど、何か入善のほうにも水博物館の計画があると、これはどういうところなんだろうかな。できるものであれば私は1箇所にしたほうがいいんじゃないかなと思うんですけど、そこがやっぱりちょっとよくわからないんですけど。

【市長】

この水博物館につきましては、新川広域圏事業として水博物館構想の推進というのがございました。そして、水博物館という拠点施設、この黒部川流域の水を生かした博物館をつくらうということで、そういう議論がこれまであったわけでありまして、これを黒部市につくるのか、入善町につくるのかということで長い間議論が持たれて、その結果、長い間かかっておるものだから、県のほうから、こういう大きな拠点の建物、箱物をつくるのではなくて、この地、流域全体が1つの博物館として、フィールドミュージアムとして、いろんな調査研究なり、いろんな観光などに活かしてしていければどうなんだということ、フィールドミュージアムという言葉が出てまいりました。

そこで、いつまでもこの議論を、黒部か入善かというようなことで議論をしておってもなかなか進まないものですから、そこで、黒部市の私のほうから提案させていただいたのは、こういう時代だから、大きな箱物をつくって博物館をつくるのではなくて、せっかくだから、新幹線の駅ができる駅舎の方にフィールドミュージアムの玄関口、あくまでも博物館全体はこの黒部川扇状地のフィールドである、そこにやっぱり訪れるための情報の提供発信をしていく、そういう玄関口をつくらせてもらえんかということで少し切り口を変えたら、それならいいのではないのでしょうかということで県の支援をいただけるということになりましたので、フィールドミュージアムの玄関口としての整備を進めていくと。

私は、玄関口というのは幾つあってもいいと思っています。東向きがあらうが、西向きがあらうが、幾つあってもいい。ですから、入善町さんのほうでも、そういう情報発信基地をつくりたいということで玄関口を求められるのであれば、入善町さんのほうでもそういう施設を提示されればいいので、とにかく黒部市とすれば、新幹線の駅の方にこういう自分たちの自慢できる、豊かな自然とか名水とかを感じていただいたり、情報を発信したりというような、そういう施設を新幹線の地域観光ギャラリーと。

特に新幹線の駅舎のデザインというものが今話題になっておりますが、新幹線の駅舎というものは長さが300メートルほどで高さが25メートルほどの駅舎ができます。これは国がつくれます。ここに併設するような形で、都市機能といいますか、地域が活かせる、そういう設備というか、施設として地域観光ギャラリーというものがつくられる予定であります。この絵の三角形の部分になっておりますが、そこが、1階が600平米、2階が600平米の2層建てという計画になっております。その2階部分の600平米を使って、このフィールドミュージアムの玄関口、水博物館としての整備をできればいいと考えておりまして、

その部分について県の支援をいただきたいということで今進めておりますので、これまでの拠点施設としての水博物館とはちょっと考え方を変えたということでもあります。

【事務局】

よろしいでしょうか。
ほかにございませんか。

【市長】

小・中学校の再編というのは、今回のタウンミーティングテーマの中で一番重たいテーマだろうと考えております。こういうテーマを出すと、議論がはくちゅうすると予想をしておったんですが、あまり意見が出ないということはちょっと予想外なんです。

やはり地域にとっては、学校というものが非常に大事なものであると思っております。そういう中で、やはり子供たちの教育などを考えれば、現実的には近い将来、統合を進めていくということは仕方がないのかなと。ただ、進めていく上での進め方とか、いろんな皆さん方とのコミュニケーションを図る上でのいろんな条件などについて、やはり今のうちからしっかり言っていたいただいたほうが、次のステップに、段階に進めるのではないかなと思っておりますので、ぜひいろんなご意見をいただきたいと思っております。

あまり意見が出ないようでありますので、ちなみに、宇奈月小学校が18年3月に4つの小学校が1つになって統合されたんですが、そのときに、旧の小学校に通っていた父兄で、そしてまた、新しい小学校になった両方を経験された父兄に対して、今年の3月にアンケートをとりました。どうでしたかと、統合されてどう思いますかということでアンケートをとらせていただきました。その結果、学校が統合する前に統合に賛成でしたかという質問に対して、賛成というのが23%、どちらかといえば賛成が35%、それで、合わせればほぼ賛成が58%、約6割の方が賛成です。そして、その当時、反対という方が4%、どちらかといえば反対が20%で、合わせてほぼ反対が24%で、4分の1の方が反対というご意見でございました。その結果、統合した後、どうでしたかという質問に対する回答は、統合してよかったが53%に対して、よくなかったは11%ということになりました。どちらとも言えないというのは実は35%あったんです。最初は反対しておったけれども、統合してみたらよくなかったという方が半分以下になったというような数値であります。どちらとも言えないというのが35%おられるということは、やっぱり統合してから、統合した後の1つの歴史といいますか、時間がたたないと、なかなか統合した結果のその成果、メリットというものが少し見えづらいところもあるのかなと思っております。

そういう意味では、統合前と統合した後のアンケートの結果からすれば、最初は心配しておられて反対ということであったんですが、してみればそんなでもなかったというような方が多かったのではないかなと思っております。これはあくまでも宇奈月小学校のアンケートの結果ということでありますので。私は大布施小学校の出身なんですが、大布施小学校と三日市の一部が統合されたような格好で中央小学校ができたという歴史もあります。

何かご意見があればご発言をお願いします。

実は中学校は4校あるんですけど、魚津市、滑川市は中学校は2校です。ですから、そういう意味では、中学校の4校も将来的には厳しいというふうには思っておりますので、これら

について、どう対応していくかということも大事な大きな問題ではないかなと思います。

【Aさん】

いつも市長で申しわけないですけど、市長として1学級何人ぐらい、アンケートは出ていますけど、どれぐらいの規模というか、生徒数がいいと思っておられるのでしょうか。

【市長】

私は、現実的には30人から35人ぐらいがいいのではないかなと思っております。

【Aさん】

ありがとうございました。

実はちょっとくだらんような質問をしたわけなんですけど、私の子供が、娘なんですけど、高校の先生をやっておりますけど、いろいろ聞いておりますと、おそらく小学校、中学校の問題かと思えますけど、いろいろ見ておると、数学で全部ひっかかってくるらしいですね。数学の掛け算ですとか足し算の繰り上げとか、そういうようなことがやっぱりひっかかって、数学というのは積み重ねで来るらしいので、そういう意味からいうと、いろいろ聞いておりますと、やはり生徒数を少なくして、本来からいうと、例えば先生が補助をつけて教えるというのが一番ベターな方法ではないかなと思うんですけど、そういう点からいうと、いろいろ聞いておりますとやはり少人数のほうが私はいんじゃないかなと。それにプラスアルファ、何か補助員をつけるとかというところで、いろいろと聞いておりますと、やっぱり数学が一番つまずくようですね。そこでつまずいて問題があるとかというような話を聞いておりますので、そこら辺もひとつ今後の参考にさせていただければと思うんですけども。

【事務局】

ほかにございませんか。

まだ30分ほどございます。

【Cさん】

たびたび申しわけございません。太陽光発電の取り組みについての質問をさせていただきたいと思います。

現在、4つの小学校に設置されておりますけれども、稼働というのを子供たちは楽しみにしているんですが、まだ動いていないところもあるみたないですけれども、この後、いつごろ稼働される予定でしょうか。また、動いているということを見ることで、やっぱり太陽の光を利用しているんだなと、環境に優しいんだなというのがわかると思いますけれども、それについて教えてください。

【市長】

できるだけ早く稼働させたいと。パネルは設置されておりますし、ほぼ工事は終わっているんですが、一部動いていない学校がございます。家庭用の平均的な3キロ、4キロワ

ットのものについては、かなり完成されたものらしいんですけども、今学校で取りつけております20キロワットぐらいのものについては、まだまだ製品としていろいろ現場合わせみたいなどころがあるということで、太陽光発電では、実はちょっと音の問題等があって、低周波が出ているのではないかとということで、我々には聞こえない音で子供たちには気になる音が一部出ているようなので、そういうものを少し改善させておりますので、まだ動かないところがありますが、とにかく早く動いて、子供たちにも学校内の校舎の中で、今どれぐらい発電しているかというものが目に見える形でモニターでわかりますので、子供たちにも関心を持ってもらえるのではないかなと思っているので、できるだけ早く稼働させるように今進めておりますので、待っていただきたいと思います。

【事務局】

よろしいでしょうか。

【Dさん】

三日市のDです。

中学校の3校以下への編制の検討ということですが、これがまとまらないと、桜井中学校の改築の計画はどうなのでしょう。

【市長】

非常に大事なところをご指摘いただいたのですが。

桜井中学校につきましては50年ほどたっておりまして、かなり老朽化していて、耐震化も非常に厳しい結果が出ておりますので、できるだけ早く改築したいと思って、今、教育委員会のほうで検討をしています。

そこで、この中学校の再編の議論がなければ桜井中学校は改築できないのではないかとご意見だと思いますが、4校の中で、先ほども今後の児童・生徒数の推移のところを出ておりますが、桜井中学校については、この4校の中で最も生徒数が多い学校です。ですから、4校を3校にするという計画であります。桜井中学校については現状のままで校舎の改築等をしなければいけないのかなと考えておまして、この再編議論をまとめておいたら、桜井中学校がまだまだ後になるということにもなりかねませんので、桜井中学校については、このまま単独でいけるという判断のもとで改築計画を進めておるところです。ということは、残りの3校がどうするかということにもなる、言っているようなものですが、それらを含め、桜井中学校の改築も4校を3校にする議論が終わってからやれということであれば、またそういうご意見も言っていただければと思いますが、桜井中学校については、あまり先に延ばすことはなかなか難しいのではないかなと考えております。

【Dさん】

ありがとうございました。

【事務局】

よろしいですか。

ほかにございませんか。

【市長】

今日のこの会場におられる方は、何か統合であまり大きく影響を受けないような方が多くおられるようで、三日市の方が多いと思ったのですが、多いような気がしますので、自分たちのことだけではなくて、黒部市全体を見据えた上でご意見を賜りたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

バイオマス利活用事業については、よくわかりましたでしょうか。実はあの事業の中で、家庭の生ごみでディスポーザーというのがあの絵の中にも出ておったんですが、そういうものの設置で、補助も出しておりますが、ぜひ、まずは下水道にも接続をやりたいと思っておりますので、下水道にまず接続していただいて、その後、ディスポーザーで家庭用生ごみを流していただくということにさせていただければ、計画とすれば大変ありがたいなと思ひているんですが。そういうようなご意見でも構ひませんで、ご発言をいただければありがたいと思ひます。

【Eさん】

前沢地区のEです。よろしくお願ひします。

先ほど、前沢地区のBさんも言われたんですけども、前沢小学校と三日市小学校の統合についてですけども、これを見ますと平成30年ごろになるということでもありますので、平成30年までの8年間の間にどういった問題があつて平成30年となっているのか。それともう1つは、Bさんも言われましたけれども、地区でやっぱり地区の運動会とか、そういうものが学校の校庭でやっているものですから、そういうところはどうなるのか、また、学校が廃校になったときに再利用ということではいかなと思ひますけど。私は個人的に思ひますけれども、廃校になった場合には、私は自分のお婆さんとか、個人的に老後の生活の面倒を見ておるわけですけども、施設が黒部に大変足りませんで、それで、かわりに廃校を利用して、福祉の施設などをつくられたら市民も助かるのではないかなと思ひますので、その辺、市長から聞かせてもらえればと思ひます。

【市長】

前沢地区のEさんのご発言の中で、前沢小学校が統合になった場合に、運動会などを開くグラウンドをどうするかということについては、当然、地区の運動会とかそれ以外のグラウンドを利用する行事に対してどうするかということについては、当然、統合された場合には対応していかなければならないと思ひます。

また、現在の校舎を利用して、特別養護老人ホームなどを期待しているということでもあります。今、統合の話が出ている他地区からも、そういうようなご意見をお聞きすることが結構あります。高齢者介護事業の中で、こういう施設をぜひ増やしてほしいということでもあります。そういうことも含めて、統合議論と一体となつてご意見をいただきながら、議論をさせていただければいいのではないかなと思ひます。

ただ、一方で、介護事業の中で施設は確かに足りない、待機者が黒部市だけでも100人近くおられるということは当然わかつておまして、それを今の介護事業の計画の中で順

次増やしていく計画はございます。このままではなかなか満足していただけないということで。ただ、一遍に増やすと、それが全部保険料に反映されますので、計画的、段階的に増やしていかなければいけないのかなと考えておりますので、ぜひそういうことも含めて、具体的、現実的なご意見をさらに、当然、前沢地区なりにも地区の説明、あるいはPTAの皆さん方への説明ももうそろそろ入っていきたいと思いますので、そういう中で1つのアイデアとして言っていただいて、できればそういうものを実現しながら、統合に向けて説明できればと思います。

【事務局】

よろしいでしょうか。

【Eさん】

どういう計画で30年とされたのか聞きたいのですけど。今、平成22年ですから、8年後までの間にどういう問題をクリアすれば早く統合できるのか、その辺も。

【市長】

東布施小学校と田家の統合と前沢と三日市の統合につきましては、児童数の推移からして、これぐらいまでにはしたほうがいいのではないかとということで計画しているわけがありますので、前沢地区もかなり児童数が減ってまいりましたので、先ほど言いました複式学級等の状況になるころまでには何とかしなければいけないだろうということで、学校教育基本計画の中で計画しているということでもあります。さらに、もっと早くといいますが、議論も含めて、みんなで考えていこうということであれば、別に30年度ごろまでにとということなので、もっと早くなることも十分考えられるだろうなと思っておりますので、まだ前沢地区にはそういう意見交換の懇談会をまだ開いておりませんので、今予定しておりますのは、東布施地区では地区の教育懇談会はまだ開きました。それから、東布施小学校のPTAに対しても懇談会はまだ開いております。さらには、実は明日、また東布施地区での教育懇談会が地区で予定されております。その後、年内には、相手であります田家地区でも地区懇談会を年内に予定しております。また、今年度中には前沢地区でも、今年度3月までには前沢でも一度こういう議論をぜひさせていただきたいということで計画しておりますので、近いうちにそういう教育懇談会の場を設けますので、そこで地区の皆さん方のさまざまな意見をまた言っていただきたいと思います。そういう一步一步進めていかなければ、なかなか決められない大変大事な難しい問題だと思っておりますので、一步一步進んでいきたいと思っております。

【事務局】

ほかにございませんでしょうか。

【市長】

よろしいですか。

そうしますと、再編については、今日は本年度のタウンミーティングの初回であります

し、マスコミも入っておりますが、統合に向けては厳しい意見は出なかったということになってしまいますが。ぜひ遠慮なく、ご発言があればお願いしたいと思います。

時間がもったいないですから、勝手に何かしゃべりましょうか。

国勢調査が終わりました。5年に1回の国勢調査が終わって、速報ですけれども、実は黒部市はここ5年間で1,000人ほどの人口減です。これは予想よりもやっぱり若干早いなという気がします。これがもっと加速度的に減っていく可能性というのは十分考えられますので、そういうことに対して教育現場をどうするのかということも考えていかなければならないですし、社会全体の仕組みそのものも、よく考えていかなければ厳しいのではないかなと思います。

特に、国勢調査の全国の結果が出ればまたわかってくるだろうと思いますが、地方都市が極端に減っているのではないかなと。都会はあまり減っていないと思います。逆に増えているところもあるのではないかなと思います。地方都市が、このままでしたら急激に減っていく。2050年には9,000万人になるというふうに、日本の人口が三千何百万人ぐらいは減って、もしかしたら4,000万人ぐら減って、9,000万人を切るのではないかとと言われておりますが、その中で都市部はあまり減らない。ということは地方で、都市部で約3,000万人ほど、三大都市圏あたりで起きるとすれば、9,000万人から3,000万人引いたら6,000万人しか残りませんので、今、地方で1億ちょっと人口があるものが4割程度減って、極端な話が半分になるところが出てくる。しかも、それは地方都市同士で格差が開くだろうと言われておりますので、そういう意味では、ほんとうの人口減少期が我々地方都市にどういう影響を及ぼしていくのかということについては、やはり今のうちから対策もとらなきゃいけないんですが、しっかりと対応をしていかなければいけないだろうと思います。かなり厳しい結果になっていくのではないかなと思います。

ディスポージャーの話ではないですか、女性の方々。よろしいですか。

【Fさん】

三日市のFと申します。

今のディスポージャーのお話ですけれども、普及率はどんなものでしょうか。

【市長】

今年度、1件当たり3万円の補助金を出すということで計画しまして、実際、補助金が出たのは6月議会後に4月にさかのぼって出ました。今のところ、約100件の予算を組んだのですが、それが足りなくなってもう100件、12月補正で出す予定であります。ですから、年間200件程度は取りつけていただけるのではないかなと思っております。

つけられた方のご意見を聞きますと、かなり喜んでいただいているのではないかなと思っております。実はうちにもつきました。やっぱり率先してつけなければと。何がいいのかなって、やっぱりにおいがある生ごみとかそういうものが瞬時に流しのほうから流されますので、においのあるものとか、何か見た目があまりよくないような生ごみについては非常に便利なのではないかなと思います。うちも田舎ですから、後ろに大きな畑があるんですが、畑に持っていく手間もなくなって、男性としては喜んでおります。

【Fさん】

この補助金の打ち切りなんてあるのでしょうか。

【市長】

打ち切りはありませんが、続けてはいきたいと思いますが、条件があります。3年以内です。公共マスが設置されてから3年以内に取りつけられた方に対して3万円の補助をするということですので、今現在、もう下水道に接続されている方については、3年間の間に取りつけていただいた方については3万円の補助金を出すということで考えております。

【事務局】

ほかにございませんか。

最初にお話した終了予定時間がだんだん近づいておりますので、あとお一人のご発言とさせていただきたいと思いますので、ご協力をお願いします。

どなたかいらっしゃいませんか。

【Gさん】

三日市のGです。

今、運動関係のことで1つ質問したいんですが、今、宮野運動公園陸上競技場のグラウンドが土のために、子供たちは朝から練習ができない。それで、最近、魚津に桃山ではタータンができています。あるいは、入善にもタータンができています。あと2年、3年後には滑川市もつくろうと上田市長が頑張っておられます。そして、滑川の一つの中学校では150メートルのものが2台つくってある。そういうことになると、黒部だけが何もありません。つい最近までYKKにもあったんですが、今YKKは、なくなってしまいました、何か森をつくろうということで変わってしまいました。それで、もし宮野に、できましたら、今、宮野ハイツとかふれあいハウス、あるいは旧の青少年の家とかがありまして、そこで富山大学の学生たちが来て練習していこう、泊まって練習していこうということで、そのほうが活気あふれるようになっていくんじゃないかと思っています。ぜひお願いしたいんですが、桃山については3億円かかったとか言っているんですが、ああいう電気系統までやっていたかなくてもいいので、あそこでは30メートル照明とか、そういうのもありますが、黒部はそこまで作っていかなくていいんですから、ぜひお願いしたいと思います。以上です。

【市長】

今日のテーマとはまた違いますので、お答えできませんというわけにはいきませんので。あまりご発言がございませんので。

簡単に言えば、今のところ計画はしていません。申しわけないんですが、試算はやってみました。やはり数億円かかるということです。それから、滑川市は今度やるという話も聞いておりますが、魚津とか滑川とかにはない、黒部市になって黒部市にあるような総合体育館の、例えばプールとかいろんな施設がまたたくさんありますので、これからはやは

りすべてがこの地に整備するということはなかなか、先ほどから言う、いろんな人口減少とか財政の問題とかいろんなことから考えれば、お互いに役割分担、機能分担みたいなことは各地域の中で考えていかなければならない時代に入ったのではないかなと思います。ここまで宮野の陸上競技場を全天候型トラックにするということについては、今のその振興計画の中では考えておりませんので、やがてそういうことが必要という判断になったときはまた計画しますが、今のところ厳しいのではないかと考えているところです。

【事務局】

これまでいろいろなご意見をいただきましたが、予定の時間になりましたので、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきますと思います。

それでは、閉会にあたりまして、堀内市長から、本日お集まりいただきました皆様にお礼も含めまして、ごあいさつ申し上げます。

【市長】

長時間にわたって大変ありがとうございました。

実はこの小・中学校の再編というテーマを出すときには少し考えたのですが、かなり重たいテーマですからどうかという意見もあったんですが、やはり先ほど来言っておりますと今後の人口推移、少子化などのことを考えれば、第1段階として、まずは皆さん方とやはり議論をするということが大変大事だと思います。そういう中で計画と。教育委員会のほうにも、自分たちのやはり目標といいますか、計画をしっかりと持つということが大事だということで、学校教育基本計画の中で、先ほど示させていただいたような、そういうような目標を設定して、学校の再編に取り組んでいこうということでもあります。ぜひ、まずは住民の皆さん方のご理解、ご協力が一番でありますし、もし統合した場合に、先ほどありましたような、運動会をするときのグラウンドをどうしたらいいとか、あるいは、現在の校舎の利用をどうするのかといったような具体的な、現実的なやっぱりご意見が当然出てくるわけでありまして。そういうものもぜひ地区で、個人の意見ももちろん持っていていただくんですが、それを地区でまずまとめていただく、地区でまずはいろんな話し合いをしていただくということが次のステップにつながっていくのではないかなと思いますので、そういう意味では、地区の皆さん方もよく相談をしていただいて、あるいはPTAの皆さん方も、まずPTAとしての意見をまとめていただいて、そして地区の皆さん、PTA、我々市当局、教育委員会と、みんなで議論をして、確実に進めていくということが大変大事ではないかなと思います。

黒部市はたくさん課題を持っております。新幹線とか市庁舎とか消防とか病院の改築とかたくさんありますが、その計画の中にどういうタイミングで入れていき、また、どういような予算立てをしていかなきゃいけないかといういようなこともかかわってまいりますので、やはり今の議論が2年、少なくとも3年後、5年後の成果につながるような、そういういような議論になればいいのかなと思っておりますので、今日議論したから来年、再来年というわけにはいきません。早くて3年、時間がかかれば5年、10年という先の議論を今から積み上げていくということが大変大事だと思いますので、そのためにも、やはりいろんな情報を共有する、いろんな議論をするということが第一歩だと思いますので、ぜひ

こういう場所に出てきていただいているんな議論をし、そしてまた、それをみんなで深めていっていただければ大変ありがたいと思っております。

今日は、ほんとうにそういう意味ではたくさんの方に参加をしていただきまして、まことにありがとうございます。今後もいろんな場でこういう議論を深めていきたいと思しますので、地区なりPTAの皆さん方には、ぜひまた活発にご意見をいただきますようお願いいたします。あいさつに代えたいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。帰りにお忘れ物のないように、またお気をつけてお帰りいただきますようよろしくお願いいたします。

なお、先ほどお配りいたしましたアンケート用紙ですが、ご記入の上、会場出口の回収箱へ入れていただきますようよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

— 了 —